

富永神社祭礼奉納

とき 平成十五年十月十日(金)
午後四時四十分始
ところ 富永神社 能楽殿

能組

仕舞

小鍛冶 島尚大郎
経政 島考三郎
雲雀山 平野阿裕美
鞍馬天狗 平野瑞季

島尚大郎
島考三郎
平野阿裕美
平野瑞季

狂言

福の神 福の神権 田捺実

参詣人1 小林加奈
参詣人? 山本佳澄
後見権 田重絃
地謡 酒田重宏
水権 谷至男

仕舞

安宅 今泉尚美
西王母 松尾明海
西王母 中嶋瞳
草紙洗小町 今泉友美

今泉尚美
松尾明海
中嶋瞳
今泉友美

狂言

鬼瓦 大名畑 中良雄

太郎冠者 山口俊一
後見権 田重絃

仕舞

高砂 鈴木崇史

仕舞

竹生島 谷野允千帆

狂言

棒縛 太郎冠者 天野雅夫
次郎冠者 山本勝

主人 小林常男
後見 加藤賢一

(休憩 三十分)

4:40分頃

5:00分頃

5:30分頃

6:00分頃

7:00分頃

能

田

シテ 中嶋 康夫

村

ワキ 加藤 賢一

修

大鼓 清水 利高
小鼓 福井 啓次郎

苗 今泉 英三

後見 太田 康弘

地謡

太田 研司 森田 收
竹内 省吾 高林 白牛 二
鈴木 崇史 高林 白牛 二
加藤 貢 竹内 三郎

8:00分頃

狂言

鶏

聒

男 聒 水谷 至宏

教之手 太郎冠者 小澤 貞博
後見 畑 中野 良雄

地謡 天野 雅夫
山本 良勝

8:25分頃

半能

葛

シテ 清水 利高

城

ワキ 加藤 貢

大鼓 河村 総一郎
小鼓 森田 收

大鼓 鈴木 崇史
大鼓 酒井 淑規

後見 鈴木 木

地謡

太田 研司 今泉 英三
竹内 省吾 高林 白牛 二
竹内 三郎 高林 白牛 二
牧野 修 太田 康弘

(終了予定九時頃)

主催本町区

あらすじ

狂言

福の神ふくかみ

年の暮れに出雲の大神へ連れ立って参詣に出かけた二人が、福の神の神前で豆をまき、囃しているとき、笑い声とともに福の神が姿を表します。

自分から御酒を上げるよう催促するほどの気さくな福の神は、二人に楽しくなるよう教えを説き、目出度く舞って去って行きます。

狂言

鬼おに瓦がわら

長々在京した遠国の大名が、訴訟も無事すみ、帰ることになり太郎冠者を連れて日頃信仰する因幡堂の薬師へお礼とお別れに参詣する。この薬師を国許へ勧請するため堂の造作を詳しくみて回るが、屋根の上の鬼瓦が目にとまり、国に残した妻を思いだして泣きはじめる。太郎冠者が間もなく帰国すればお会いになれると慰めると……

狂言

棒ぼうし縛しばり

召使いが酒を盗み飲むと知った主人は、先ず次郎冠者と協力して太郎冠者に棒を使わせてすきを見て、棒に両手首を縛り、次郎冠者も後手に縛って外出する。それでも二人は苦心して酒蔵をあけ酒を飲み楽しく謡い舞う。帰って来た主人は……

能

田村たむら

東国の僧が都見物に出、弥生なかばに清水寺に着き、爛漫と咲いたそれがれ時の桜花に見とれていると、箒を手にした一人の童子が現れ、木陰を清めます。そこで僧が、この寺の来歴を尋ねると、それに応じて清水寺建立の縁起を詳しく語ります。またあたりの名所を教え、ともに桜月夜の風情を楽しみます。その様子が常の人とはどうも違うのをいぶかった僧が、童子に名を尋ねると、我が名を知りたくば帰る方を見て下さいと田村堂の内陣へと姿を消します。(中入り)

僧が夜もすがら桜の木陰で経を読んでいると、威風堂々たる武将姿の田村麻呂の霊が現れます。そして勅命を受けて、鈴鹿山の賊を討伐すべく軍を進めたが、合戦の最中に、千手観世音が出現し、その助勢によって、敵をことごとく滅ぼした有様を物語り、これも観音の仏力であると述べます。

狂言にわとり
鶏じこ
鴉じこ

舞入りの作法を教わるため、舞は日頃懇意にしている人の所へでかける。その人は舞をか
らかつてやりたくなり、舞入りの作法は鶏の鳴くまねや蹴合うまねをするのが当世風だと、
でたらめを教える。舅しゅうとの家についた舞は、門前でさっそく「クウクウ……」と鳴くまねをは
じめる。だれかのいたざらと察した舅は……。

半能かづら
葛城き

出羽国（山形県）の羽黒山から出た山伏が、大和国（奈良県）の葛城山へとやって来ます。
折りしも降りしきる雪に悩んでいると、一人の里女が現れ、庵に案内し焚火をたいてもてな
します。そして雪の中で集めて束にした木々の細枝を標（しもと）と呼ぶのだといい「標結
ふ葛城山に降る雪の、間なく時なく思ほゆるかな」という古歌もあると教えてくれます。山
伏は好意を謝し、やがて夜の勤行を始めようとすると、女はお勤めのついでに加持祈祷をし
て、自分の三熱の苦しみを助けて下さいと頼みます。山伏は不審に思っ、その素性を尋ね
ると、自分は葛城の神であるが、昔役の行者に命ぜられた岩橋を架けなかつたため、不動明
王の索に縛られ苦しんでいると、消え失せます。（中入）

そこえ麓の男が上って来たので、葛城山の岩橋の事について尋ねます。その話を聞き、先
程の女の事など思いあわせ、奇特なことと思ひ、夜もすがら女神のために祈祷します。する
とその修法にひかれて葛城の神が現れ、三熱の苦を免れた喜びを述べ、大和舞をまい、暁近
くなると、岩戸の内え姿をかくします。

半能

一番の能の前半をほとんど省略し、後半のみを演ずる演能方法である。